

財団だより

第139号

2013.9

# 多摩川



Photo & Text  
遠藤 頼彦 (Hidehiko Endo)  
渋谷区在住

## ■ 六郷 多摩川緑地 ■

多摩川の流域の中でも一番大きく蛇行した多摩川、そこに出来た広大な河川敷を利用して作られた様々なスポーツグラウンドの数々。

その多摩川の土手の外には密集する人家とか工場等、下流部の独特な景観があります。川と河川敷公園のスポーツグラウンドなど、人々に活力と安らぎを与えてくれます。

## Contents 目次

巻頭言 .....	2
特別寄稿 .....	3
多摩川スケッチ散歩 (11) .....	4
多摩川に学ぶ .....	6
私と多摩川 .....	7
歴史・多摩川 .....	8
インフォメ多摩川 .....	9
財団からのお知らせ	
2014年度助成研究募集 .....	13

# 巻頭言

## 洪水と川のいきもの

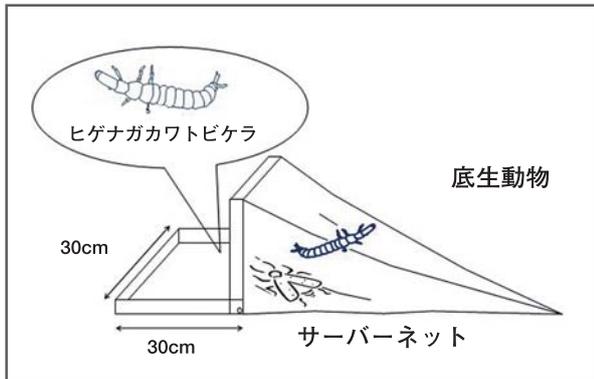


前橋工科大学名誉教授  
当財団 選考委員

土屋 十圀

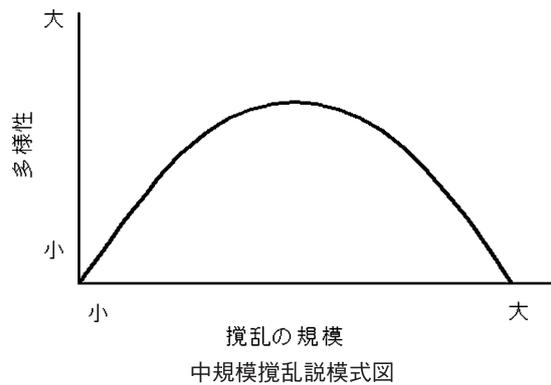
この夏も異常な気象がつづき、局所的な降雨が各地の狭い範囲に集中し、人命・財産の被害が多発している。2012年の九州北部水害、2011年の紀伊半島の土砂災害は記憶に新しい。一方では、必要なところに、必要なときに降雨が少なく、渇水現象がつづく。実に自然は気まぐれな存在である。これらの現象は1年ではなく10年、100年・・・の時間で見たととき、「非正常性」が明らかになる。気まぐれな事象を「ランダム現象」あるいは「カオス」などの用語で複雑系の研究では使われている。地震・津波などの災害もほぼ同様なことが言える。これらの自然災害は人や財産の被害は明確であり、我々はそのための対策を考える。

話が一転するが、私は子供の頃、夏は釣りや川遊びが好きで、近所の餓鬼大将たちと近くの川によく出かけた。つりのエサは川で現地調達する。河床の浮石の下にはトビケラ、カゲロウの幼虫など「ザザ虫」が沢山捕れた。これをエサにして早瀬で竿をさし、ジンケン、ウグイなどを釣る。堰堤の下では、これらの無数の魚が落ちる流れに逆らいキラキラ輝きながら跳ね上がっていく。こころがわくわくした夏を思い出す。しかし、伊勢湾台風で大洪水がありしばらく川はどこも濁水でエサも取れず、さっぱり釣果はなかった。こども心



に川虫や魚は洪水でどこに行ってしまったのか不思議であった。

日本の気候は一年のうちにも実に変化に富む。川虫や魚もまた、洪水や渇水という「非正常性」のもとで、すなわち過酷な環境に生息している。洪水時は、水中の酸素も少なく、水面近くや水辺の植生の隙間に避難している様子をしばしば観察した。また、洪水が引くころ、支川や農業水路などに逃げ込んでいる魚影が見えた。水の流れは連続性があるから彼らは自由に移動ができる。これらの避難場所、ストックヤードは重要な生息空間であることを後から知った。洪水や渇水は河川生態系にとっては攪乱 (disturbance) であり、底生動物の現存量や種の多様性は大洪水で砂礫は動き、棲みか (niche) は破壊され、減少を余儀なくされる。しかし、数年すると造網型のヒマトビケラなどの優占種によって安定した極相に到達する。かれらの棲みかの復旧復興は見事である。しかしながら、この攪乱は繰り返されることとなるが、現存量や種の多様性は決して単なる繰り返しではなく、これらを最大にする攪乱頻度が適度にあることによってその状態を維持できる。



中規模攪乱説模式図

これは Connell(1978) の中規模攪乱説と呼ばれている。上流にダムのない秋川、北浅川の約20年の生物データ解析から、このことが実証的に分かった。即ち、川には洪水頻度が多すぎても少なすぎても底生動物の現存量や多様性は失われ、適度な攪乱があることがわかった。川の自然現象もランダムのようにみえるが、少し時間を長くみると普遍的なものが見えてくる。

ベンガル湾に発生するサイクロンには人間を壊滅させるボンナ (Bonna) と、人間に恵みをもたらすハオール (Haor) があるとバンラデッシュの研究者から聞いたことがあった。洪水と川のいきものの中規模攪乱説を思い起こした。

## 特別寄稿

### 自然を観ること、感じることから 生物多様性を伝える



自然観察指導員東京連絡会  
代表 川上 典子

自然観察指導員東京連絡会（NACOT）は公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）に登録している自然観察指導員で構成され、主に都内で活動する会員約200名の団体です。私たちNACOTは自然観察会を通じて、自然の素晴らしさや大切さを感じてもらい、自然を守ることにつなげることを目指して活動を行っています。私たちは「国連生物多様性の10年」を推進していくために、多くの人々に自然を身近に感じて触れてもらい、実際の生きものを観ることで生き物同士のつながりを理解してもらおう自然観察会の普及啓発に努めています。

活動の中心は、まず地域での自然観察会です。東京都内10か所以上の定期的な観察会を行っています。地域の自然を知り、その地域の人たちと一緒に自然の大切さを広げるようにしています。野川公園、石神井公園、善福寺公園などの都市公園や、高尾山、横澤入りなど周辺のフィールドで四季の観察会を行っています。NACOTの観察会は何よりも“五感を使うこと”を大切にしています。そして今まで気づかなかった生き物のつながりがこんなに身近にあることを多くの子供たちに体験してもらっています。

毎年、「干潟を守る日」の観察会として春には多摩川河口干潟で観察会を行っています。川崎側と大田区側と交互に



行い、たくさんのカニやシジミなど干潟の生きものに触れ、子供たちが歓声を上げています。多摩川河口干潟の生きものの多様性と干潟の大切さを実感してもらう観察会です。

また、5月の「国際生物多様性の日」を記念してNACOTとしての大きな「みどりの自然観察会」を



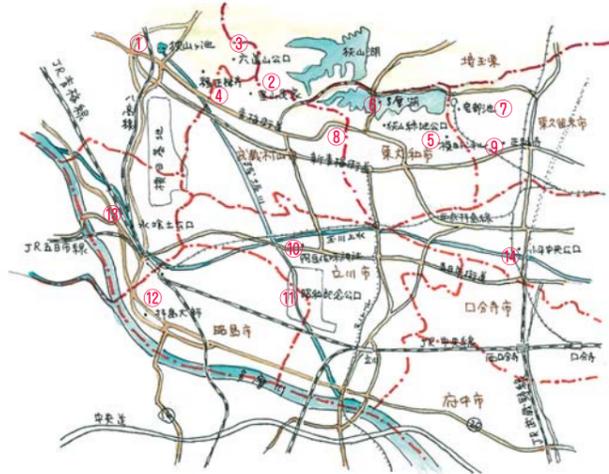
日比谷公園で開催しています。一般の市民が都会のオアシスとして利用する都市公園の中にも、生き物のつながりがたくさん見られることを改めて感じてもらっています。様々な目的で来園される人たちにこそ伝えたい自然の営みです。毎年150名以上の方が参加します。

NACOTの普及活動は、自然観察会だけではなく、もっと身近に感じていただくために、自然物のアート、自然の素晴らしさを絵や写真にした展覧会を開催しています。会期中大勢の方が来場する新宿御苑のアートギャラリーで作品を見ていただき、少しでも生き物や人とのつながりに関心を持っていただけるように、観察会参加へのきっかけづくりにもなっています。

NACOTのもう1つの大きな活動は、「セミの抜け殻しらべ」の観察会とモニタリング活動です。子供たちにも関心の高い「セミ」は指標生物でもあり、毎年、セミの抜け殻を調べることで、その地域の環境の様子がわかってきます。夏の観察会として子供にも大人気のセミ。身近な生き物がさまざまな変化を伝えてくれます。



私たち自然観察指導員は、一般市民の目線で、より一層身近に生物多様性の大切さを伝えていかなければなりません。それにはまず生き物を観察して感動すること、命のつながりを伝えていくことが大切です。次世代へつなぐために、子供たちへ積極的な働きかけをしながら、みんなで自然の素晴らしさを伝えていこうと思います。



# たまたがわスケッチ散歩 (11)

## 残堀川流域

残堀川は多摩川支流のうち唯一北側から流れ込んでいるといわれているが、その流れは古多摩川の河岸段丘下のハケの流れでもあるといわれ、いわば古多摩川の名残りであろう。その後背地は古多摩川の三角州の狭山丘陵や武蔵野丘陵でその南縁には縄文時代よりの遺跡群が発見されたり古来より文化が栄えている。しかし、関東ロームの台地は水田耕作には向きでなかったが、江戸時代になって玉川上水の開通で名主を中心とした畑作農業が盛んとなり首都の胃袋を支えた。現在は首都圏鉄道交通網から取り残されており典型的な郊外住宅地となっている。



### ② 六道山公園 里山民家

狭山丘陵の南端のは何本もの谷戸が開析され小さな田圃が作られている。そのうちの一つの岸たんぼの奥には里山が広がりかやぶき屋根の民家がある。この里山はボランティアの人たちにより運営されているようで古来よりの農家の生活を体験するイベントなどが開かれている。



### ③ 六道山公園 展望台

六道山公園は狭山丘陵の西端から南端一帯にあり都立公園としては最大で「緑の島」と呼ばれている。雑木林と丘陵を切り開く谷間の組み合わせ自然豊かな自然公園となっている。その西端の頂上は桜の林となっており、その頂上の展望台からは富士山をはじめ360度の展覧を楽しむことができる。



### ⑥ 多摩湖

羽村取水堰で取水された多摩川の水は埋設導管で一旦、狭山丘陵のほぼ中央にあるこの多摩湖に蓄えられる。その周囲はコナラやクヌギなどの雑木林に囲まれる自然公園。日本一美しいといわれているネオバロック様式の取水塔が二本立っており遠景には富士山を望むことができる。



### ① 狭山が池

残堀川の源流は狭山丘陵の湧水を集めるこの狭山が池である。10数年前の改修が始まる前には付近一帯は湿地帯で人を寄せ付けることはなかった。現在はすっかり整備され、公園として野鳥の飛来地としてこの場となっている。この湧水を集めて流れていた水は国道16号線をアンダーパスで潜る工事に伴って伏流水となり現在はほとんど下流への流れは途絶えている。



### ④ 福正禅寺

狭山丘陵の南縁の傾斜地にはたくさんの神社仏閣がある。それらの中でも最もよく整備されているものはこの福正禅寺であろう。総門、三解脱門、法堂と一直線に配置されている伽藍とその上にある奈良興福寺のミニ五重の塔など傾斜地によく配置されている。



### ⑤ 横田トンネル

多摩湖アースダム建設のために羽村から造られたトロッコ道。現在は廃線となり野山北自転車道として整備されているが、狭いこともあり、桜並木の遊歩道としての利用が目立っている。



### ⑦ 宅部池 (たっちゃん池)

多摩湖堤防の下にある狭山公園の中にある野鳥の楽園の小さな池。遠景には堤防の裏に西武園遊園地が見える。



### ⑧ 狭山緑地公園

狭山丘陵には鎌倉時代の古戦場や縄文時代の遺跡が点在している。また豊かな自然も残されており、足元では可憐な山野草が咲き野鳥が歌い虫がはまわっている。しかも、あまりの広大さと周囲には利用する人口は少ないことより、人工的な施設の老朽化が進んでいる。左の崖地には狭山丘陵生成の歴史の痕跡が一部露頭している。



### ⑨ 正福寺 地藏堂

都内の建築物としては赤坂迎賓館とこの地藏堂の2棟が国宝として指定されたものである。室町時代の建立とされ鎌倉の円覚寺舍利殿と同じ様式である。下階は裳階(もこし)と呼ばれる下屋で、垂木も本屋の放射状ではなく並行に組んでいる。



### ⑩ 阿豆佐味神社 (あずさみじんじや)

立川断層がその直上を通ることによって有名になった立川市砂川四番の神社。もとは狭山丘陵の殿ヶ谷にあったが、名主の砂川氏が砂川新田開拓のためにこの地に來たことで移転したとのこと。殿ヶ谷にもそのまま朽果てそうではあるが大きな阿豆佐味神社がある。



### ⑪ 昭和記念公園

残堀川は旧日産村工場とこの昭和記念公園の前身の基地建設のために人工的に移設されているが、大雨でもない流れることはない。国営昭和記念公園は昭和天皇在位50年を記念して旧陸軍の基地で終戦後は米軍の基地の返還を受けて整備された18Haに及ぶ大きな公園。スケッチは公園内を流れる残堀川にかかるもみじ橋の雪景色。

## 画と文 野尻明美 (のじりあけみ)

よみうりカルチャーセンター 講師  
一級建築士、工学博士 (東北大学)  
科学技術庁長官賞、紫綬褒章 受章  
東急ハンズ大賞クラフトの部 入選  
「水彩スケッチと10の活用術」  
日貿出版社 他技術書多数



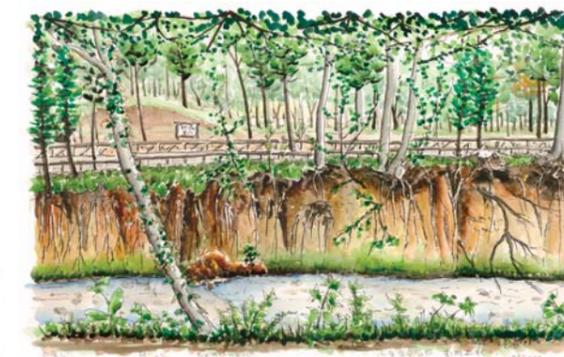
### ⑫ 拝島大師と藤棚

昭島市にある天台宗の名刹。比叡山延暦寺の焼き討ちの際 難を逃れたご本尊元三大師象を記っているとのこと。数年前不審火を受け一部消失し右のケヤキはその痕跡で奇妙な枝ぶり。中央の藤棚は拝島の藤として都の天然記念物。左端は由緒正しい日吉神社へ続く参道。このようにこの一帯は養蚕業の集配地拝島としての文化発信基地。



### ⑬ 水喰土公園 (みずくらいどうこうえん)

玉川上水工事の際、取水位置は幾度も変わったが、最終的には羽村堰から取り入れ、いよいよ通水となった。ところがここ拝島の五日市線と八高線にはさまれた地点で、水が地中にしみ込んでしまい失敗(その遺構が道の右側)。すぐ横を掘りなおして左側のように現在も流れ続けている。両側を掘ったことで残土は今も大きな山となっている。



### ⑭ 小平中央公園を流れる玉川上水

玉川上水の堤防は玉川兄弟が開削した当時のままのところとコンクリートで保護されたところがある。先日、計画道路の工事を始めるか否かで住民投票が行われ、規定投票率50%に達しないことを理由に反古とされた地点がここで、関東ロームの自然堤防のまま残された貴重な地点。裏の雑木林は小平中央公園、右側は津田塾大学のキャンパスとなっている文教地域。

## 多摩川に学ぶ

「川崎にこんなところが、」  
だいし水辺の楽校で



だいし水辺の楽校  
佐川 麻理子

対岸の空に羽田空港からのジェット機が飛び交う。ここは、川崎市の南の端。多摩川河口。川崎大師や京浜工業地帯の存在では知られているが、豊かな自然の中で数多い干潟の生きものたちがくらすことは、地元で暮らす市民でさえ多くは知らない。

多摩川が東京湾と出会う河口域では海の干潮と満潮をくりかえし、広い干潟が現れる。そしてその周りは、アシ原が囲み、カニや鳥、魚たちなど多くの生きものたちを育てている。

この自然を市民や子どもたちに伝えようと地域を中心とした大人たちにより「だいし水辺の楽校」がたちあがり約3年がたった。

おりしも付近の工場が撤退した後、新たにマンション開発が始まり、若い家族世代たちも暮らし始めていた。

「まさか川崎にカニがいるなんて。」「だいし水辺の楽校」の拠点となる「水防センター干潟館」を訪れ、水槽で飼育されているカニたちにふれた親子たちもはじめは半信半疑。「すぐ目の前の多摩川には生きものたちがいっぱいですよ」スタッフの声かけにおそるおそる家族連れで干潟観察会にやってくる。

長ぐつをはきアミやバケツをもってやってくる子どもや親たちは、アシ原を分け入り、干潟に出るまでは、どこに生きものたちがいるのか全く不思議な様子。

やがて泥の上に無数のカニの姿を見つけると、まずは子どもたちが捕まえようと走り出す。「干潟の上を走っちゃだめだよ!」。スタッフの声かけに我に戻るが、すばやく逃げるカニには追い付かない。カニと子どもたちの追いかっこが始まる。

そしてあっという間にバケツの中はカニたちでいっぱいになる。

まるで戦利品のように捕まえたカニたちを自慢す



る子どもたち。生きものにふれることすらできなかったが、帰る頃には素手で難なく掴めるようになっていた子どももたくさんいる。「元いた場所に返そうね」スタッフに言われてややがっかりとするが、また干潟での再会を思い、バケツをひっくり返し、なごり惜しそうに必死で逃げるカニたちを見送る。

また干潟の自然は季節の中でそれぞれに変わる。

夏、緑一面だったアシ原も冬になると広い枯れ野にと変わる。カニや魚たちは姿を隠すが、寒い北風をさえぎるアシ原の根本には早くも早春の草花たちが潜んでいる。「これがハマダイコン、これがノビル、」次々にスタッフに知らされる草を子どもも大人も夢中になって小さなスコップで掘り出す。

わずかに集めた草たちを水防センター干潟館に大事に持ち帰ると、スタッフから野草料理の手ほどきをうけて、時には少しだけ自然の恵みを味わう事も。

活動は毎月一回。はじめは地元がほとんどだった参加者も今では都内など他地域にも及ぶ。

「川崎にこんな自然があるなんて」身近なところに生きものたちと人が共に暮らす場所がある。そんなことを淡々と伝えていければと、「だいし水辺の楽校」の思いがある。



## 私と多摩川

### 川って本当は安全で楽しい場所



家具工房「エミケン」代表  
佐藤 健一

私は奥多摩町で家具工房を営んでいます。多摩川を見下ろせるこの工房を地名にちなみ「氷川城」と呼んでいます。それ程この地が気に入っています。

多摩川との出会いは15年前になります。その頃私はまだ勤め人で、趣味でシーカヤックをしていました。地元開催の「かながわ・ゆめ国体」でスラロームカヤックという競技があるというので見に行きました。シーカヤックとは全く別物の、激しい流れを自由自在に滑るスラロームカヤックを見た瞬間、すっかり虜になりました。横で観戦していた選手に声を掛けるところ「では来週御岳に来てください」と言われ本当に翌週御岳渓谷に行ったのが多摩川との出会いでした。

噂には聞いていたカヤック乗りの聖地「御岳渓谷」本当に胸が高鳴りました。こんなところを自分なんか漕いでいいのか。目の前を流れる急流はとてもじゃないが自分が下れるような流れには見えませんでした。しかしそこを上級者たちは自由自在に漕いでいます。こんなところを漕げたらどんなに楽しいだろう。そして勇気を振り絞って初めて多摩川を漕いだのでした。

最難関「三つ岩」も無事クリア。あとで先輩に「なんだ結構うまいですね」とがっかりされてしまいました。三つ岩で沈（ひっくり返ること）を期待していたようです。私はそんな嫌味など耳に入らないほど興奮していました。

それ以来平塚市から週末ごとに御岳に通う日々が始



まりました。そして12年前、脱サラしこの地に家具工房を開いたのです。「住むなら多摩川沿い」ということは強い希望とかではなく、ごく自然な流れでした。脱サラした後の5年間はカヌーのインストラクターとラフティングのガイドで糊口をしのいでいたこともあります。この地でなければそんなこともできませんでした。

川は私にたくさんのお話を教えてくれました。流れには決して力では勝てない、流れは利用するもの。早い流れもよく観察すれば優しい場所があること。ちょっと上手くなったからと言って増水の川に漕ぎ出して大いに痛い目に遭ったこと。2007年の台風9号では氷川城も床下浸水し、地階に置いてあったカヌーやキャンプ道具など多数が流されました。しかし、神様など信じたこともない自分が「城や命まで流されなくて良かった。神様ありがとう」と心の底から思えたこと。すべて人生の教訓につながっています。

そんないいことも怖いことも含めて、やっぱりここに住めることを幸せに思っています。子供ができ、よりその思いは強まりました。今、地元の小学校では原則「川遊び禁止」です。それをとやかく言う気はまったくありません。こんなことは本来親や兄弟やガキ大将が教えることなのです。

奥多摩に住んで驚いたことに、川で遊ぶ地元の人が全然いないのです。みな休日ともなれば町外の大規模ショッピングモールに家族で行ってしまいます。本当にもったいないことです。すでに親の世代が川の遊び方を知らないのです。

私はせめて自分の子には川をしっかりと教えたいと思っています。それが親の責任であり、将来子供のためになると思っています。

夏になると奥多摩にはたくさんの行楽客が来ます。しかし残念なことに川での遊び方を知らず溺れて亡くなる方が毎年必ず出ます。私も何回か助け上げたことがあります。（助からなかったこともあります）河原でBBQをしてお酒を飲んで川で遊ぶ。小さい子に乗せ980円のゴムボートでライフジャケットもヘルメットもなしで川を下る。見ていて怖くて仕方ありません。子供のころ「川は危ないからダメ」と言われ、結局川を知らないで大人になってしまったからだと思います。これは「火」や「刃物」にも通じることだと思います。

私はこの地だからこそ教えられることを子供たちにしっかりと教えて、知識があれば川って本当は安全で楽しい場所なんだ、ということを知ってほしいと思っています。

私はこの地だからこそ教えられることを子供たちにしっかりと教えて、知識があれば川って本当は安全で楽しい場所なんだ、ということを知ってほしいと思っています。



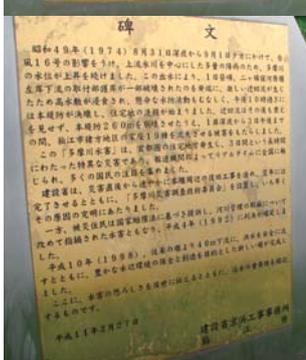
# 歴史 / 多摩川

## 多摩川決壊の碑



NPO 法人多摩川エコミュージアム  
理事長 島 保  
(地域史研究者)

この碑、多摩川の左岸、<sup>いのかた</sup>狛江市猪方四丁目の河川敷にできた公園にある。三角錐の鋼材の各壁面には、碑銘と災害の空中写真と碑文が、それぞれ黄銅板に焼付けられている。あの狛江水害から 25 年も経った 1999 (平成 11) 年に設置された。



〔写真〕 (左上) 正面の碑銘  
(左中) 決壊現場の航空写真  
(左下) 旧建設省京浜河川工事  
事務所が記した碑文

多摩川では戦後空前といわれるこの災害、1974 (昭和 49) 年の 9 月 1 日に起こった。未明に四国に上陸した台風 16 号の大量降雨によって、多摩川流域は大洪水に見舞われたのだ。

『新多摩川誌』によれば、旧建設省直轄区だけでも、「被害箇所 51ヶ所、被害総額 35 億円」に及んだという。

なんとこの日は防災の日。狛江市では早朝 から市職員、消防署、消防団などが防災訓練の予定で出動した。それが水防活動へとりかえられた。刻一刻と水流が増え、小堤の溢水や破壊が始まり、高水敷きの洗掘が発生するに及び、建設省、東京都

の緊急出動となり、さらには機動隊・自衛隊も現地に馳せ参じた。

碑文によれば、決壊の発端は、宿河原堰堤の左岸下流の取付部護岸の一部破壊



濁流に飲み込まれる家〔新多摩川誌〕

であった。そのため急激な迂回流が発生、高水敷きの浸食が進み、本堤防が 260m にわたって崩壊した。

さらに、1 日深夜から 3 日の午後にかけて、堤防沿いの家屋 19 棟が次々に流される被害を生んだ。白黒テレビのころ、次々と濁流に飲み込まれ、流されていく民家がリアルタイムに放映され、大勢の国民が水害の恐ろしさを実感した。

もちろん、水防活動や救援活動も懸命に行われたが、なかでも自衛隊による宿河原固定堰の爆破作業が目をつけた。3 日間で延べ 13 回の爆破作業、長さ 20m、深さ 2m の切り欠きを造ったものの、期待される効果は上がらなかったようだ。

一方、被災住民らはいち早く、「多摩川決壊狛江被災者の会」を結成し、1976 (昭和 51) 年 2 月に、国家賠償法に基づき「多摩川水害訴訟」を、東京地方裁判所に提訴した。一審は 1979 (昭和 54) 年 1 月、原告 (被災者) 勝訴の判決。直ちに被告の国が控訴した二審では、国が勝訴となった。そして最高裁判所への上告審。現判決破棄、高裁差戻となり、差戻審 (高裁) では 1992 (平成 4) 年、最後に被災者勝訴の判決となった。国が再上告を放棄したので、判決は確定。提訴以来 16 年余、被災から 18 年余という長き歳月が流れた。

この災害、訴訟をへて国の「河川管理の瑕疵<sup>かし</sup>について改めて指摘された水害」(碑文)となった。瑕疵とは欠点とかあやまちの意。法律用語として使われ、通常あるべきことを欠いているような状況を指す。

「水害の恐ろしさを後世に伝える」とともに、「治水の重要性を銘記する」と碑文は刻んでいる。



破堤も修復、町並みも復興した

## インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の9月から12月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### ☆ 美しい多摩川フォーラム

1. 多摩川“水”大学講座(9月20日:国分寺市ひかりプラザ501号室)
2. 第1回大人のためのカヤック体験教室(9月23日、青梅市大柳町・多摩川釜の淵川原)
3. 第6回たまりパー50キロ命名記念・RUN&WALK(10月12日:大田区~羽村市)
4. 多摩川“水”大学講座(10月18日:国分寺市ひかりプラザ501号室)
5. 美しい多摩川クリーンキャンペーン月間(11月)
6. 多摩川“水”大学講座(11月15日:国分寺市ひかりプラザ501号室)
7. 第6回多摩川子ども環境シンポジウムを開催(12月14日 昭島市フォレスト・イン昭和館)

(問合せ先) 美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内)  
 担当:宮坂/土方/及川  
 TEL:0428-24-5632 FAX:0428-24-4650  
 E-mail:forum@tama-river.jp URL:http://tama-river.jp

### ☆ 多摩川源流研究所 関係イベント

#### 第5回多摩川トレイルラン大会

主催 多摩川源流トレイルラン大会実行委員会  
 協力 小菅村・西東京市役所トレイルランクラブ  
 場所 山梨県小菅村  
 日時 9月15日(日)

#### 源流大学 農業体験

主催 多摩川源流大学  
 協力 小菅村役場・NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所  
 場所 小菅村村内  
 日時 11月16日(土)17日(日)

#### 源流大学 林業体験

主催 多摩川源流大学  
 協力 小菅村役場・NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所  
 場所 小菅村村内  
 日時 10月5日(土)6日(日)

#### 源流大学 応用コース成果発表会

主催 多摩川源流大学  
 協力 小菅村役場・NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所  
 場所 山梨県小菅村  
 日時 11月30日(土)

#### 源流大学 農業体験

主催 多摩川源流大学  
 協力 小菅村役場・NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所  
 場所 小菅村村内  
 日時 10月12日(土)13日(日)

#### 多摩川源流フォーラム(予定)

主催 多摩川流域懇談会・小菅村役場・多摩川源流研究所  
 協力 NPO法人多摩源流こすげ・観光協会・多摩川源流大学・建設業研究会・商工会・女性の会・小菅村源流景観協議会他  
 記念講演 高橋 裕先生 「源流再生の基本方向 源流白書を武器に」  
 場所 川崎市多摩区 せせらぎ館  
 日時 12月1日(日)

#### 第2回源流白書検討会

主催 全国源流の郷協議会  
 協力 NPO法人全国源流ネットワーク  
 場所 東京都内  
 日時 10月23日(水)

(問合せ先) 多摩川源流研究所 担当 中村文明  
 TEL 0428-87-7055 FAX0428-87-7057  
 E-mail genryu@ec3.technowave.net.jp  
 URL:http://www.tamagawagenryu.net

## ☆ 川崎市域水辺の楽校 事業予定表

	かわさき水辺の楽校	とどろき水辺の楽校	だいし水辺の楽校
10月	13日(日) 今季最後の魚つり	6日(日) 全国川の日ワークショップ 20日(日)多摩川流域セミナー	19日(土)ハゼつり
11月	3日(祝) せせらぎ池の整備と環境調査 23日(祝)植生調査	10日(日)中原区区民祭り 17日(日)植生調査	16日(土) 干潟観察
12月	23日(祝)手作り教室	23日(祝)野鳥観察	21日(土) ツルあみ教室

(問合せ先) 川崎市建設緑政局緑政部多摩川施策推進課(044-200-2268)  
川崎水辺の楽校(044-911-2154)  
とどろき水辺の楽校(090-5814-9604) だいし水辺の楽校(044-287-7882)

## ☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

9月1日日多摩川ふれあい移動水族館 葛飾区高砂福祉館 10時~14時 参加自由  
9月7日土多摩川まるごと遊び塾 青梅市河辺河原 9時30分~15時 申し込み制  
9月8日日多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
9月11~12日水エイリアンを食べる会 新潟県津南町ニューグリーンピア津南 入手しやすい外来種を自分たちで調理して食べます。 申し込み制  
9月14日土多摩川ふれあい移動水族館 川崎市中原区 平和館 13時~16時 参加自由  
9月15日日多摩川ふれあい移動水族館 川崎市多摩区役所 たまたま子育てまつり 10時~16時 参加自由  
9月16日月水辺の生き物探検隊 見沼田んぼで生き物調査 申し込み制  
9月21日土おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
9月22日日多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
9月23日月おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
9月28日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
9月29日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
10月5日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
10月6日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
10月12日土多摩川ふれあい移動水族館 川崎みなと祭り 川崎市川崎区東扇島マリエン 10時~16時 参加自由  
10月13日日多摩川ふれあい移動水族館 川崎みなと祭り 川崎市川崎区東扇島マリエン 10時~16時 参加自由  
10月14日月多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
10月19日土多摩川ふれあい移動水族館 多摩区民祭 多摩区生田緑地 10時~15時 参加自由  
10月20日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
10月26日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
10月27日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月1日金多摩川ふれあい移動水族館 川崎市民祭り 川崎市富士見公園 10時~16時 参加自由  
11月2日土世田谷区砧図書館 タマゾン川講演会 14時~15時30分 砧図書館 祖師谷3-10-4 申し込み制  
11月2日土多摩川ふれあい移動水族館 川崎市民祭り 川崎市富士見公園 10時~16時 参加自由  
11月3日日多摩川ふれあい移動水族館 川崎市民祭り 川崎市富士見公園 10時~16時 参加自由  
11月9日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月10日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月16日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月17日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月23日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月24日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
11月30日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
12月1日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
12月7日土多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 14時~16時 会費500円 申し込み制  
12月8日日おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 14時~16時 会費500円 申し込み制  
12月12日木多摩川ふれあい移動水族館 東京ビックサイト エコプロダクツ 10時~17時 参加自由  
12月13日金多摩川ふれあい移動水族館 東京ビックサイト エコプロダクツ 10時~17時 参加自由  
12月14日土多摩川ふれあい移動水族館 東京ビックサイト エコプロダクツ 10時~17時 参加自由  
12月15日日多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 14時~16時 会費500円 申し込み制  
12月21日土おさかなポスト見学説明会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 14時~16時 会費500円 申し込み制

12月22日 日 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 14時～16時 会費500円 申し込み制  
 12月28日 土 おさかなポスト お餅つき大忘年会 参加自由 会費千円 多摩区生田おさかなポスト管理事務所 申し込み制  
 12月31日 火 多摩川年越し感謝祭 多摩川ゼロキロメートルカウントダウン 川崎区殿町公園下流多摩川ゼロキロメートル 23時30分～0時30分 申し込み制

(問い合わせ、申し込み) 多摩川大学 おさかなポスト 管理事務所 川崎市多摩区生田7-25-1  
 メール mlc54407@nifty.com 携帯 090-3209-1390

☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

- 野川せせらぎ教室「秋の植物で遊ぼう!」～世田谷区成城四丁目付近の野川  
 ・10月27日(日) 午前9時30分～11時30分 要申込  
 秋のバードウォッチング<親子観察会>～野川周辺  
 ・11月30日(土) 午前9時30分～11時30分 要申込  
 世田谷トラストまちづくりビジターセンター ～世田谷区成城4-29-1(野川沿い)  
 ・「身近な自然と触れ合うミニイベント」原則毎月第3土曜日 午後1時30分～3時  
 要申込 / TEL 03-3789-6111  
 ・10月19日(土) 特別上映会「ネコマチッタ物語」～猫だって考えてるエネルギーのこと～  
 [1] 午前11時～ [2] 午後2時～ [3] 午後3時30分～ 本編20分  
 要申込 / TEL 03-3789-6111  
 ・「みどりの上映会」毎週土曜日 午前10時～午後3時 随時・申込不要

(申込・問い合わせ先) (一財) 世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課  
 TEL 03-6407-3311 FAX 03-6407-3319  
 財団 HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

☆ GeoWonder 企画 むさしの化石塾 「多摩川のフィールドサイエンス」 イベント日程

室内作業日程

9月から12月までの室内日程は未定です。  
 最新日程は「むさしの化石塾ブログ」に掲載ご案内いたします。

野外イベントの予定

9月以降12月までの野外日程は、参加希望者につき日程を調整し、オプション参加企画となりました。

秋から冬にかけては多摩川中流域の上総層群露頭で

地質調査並びに植物化石採集を中心に毎月1回土・日祝日のいずれかでの実施を予定しています。

同行希望者は先に参加希望届をむさしの化石塾までメールにてお申し込みください。

後日日程を調整し野外体験を実施致します。

メールにて住所・氏名・簡単なプロフィールなど連絡先を明記の上、ご希望日程、ご要望など送信下さい。

連絡先メールアドレス: geo@extra.ocn.ne.jp 一般参加費: 保険代・資料代込 1,000円

(申込・問い合わせ先)

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 MKJ 事務所

むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹

## ■平成25年度 研究助成金 受領者一覧■

### 1 新規 学術研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2013年度 助成金額
1	多摩川周辺の残る里山の植生の類型化に関する研究	鈴木貢次郎	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 教授	2年	1,000,000
2	多摩川流域の都市における保全上重要な植物群落の評価	吉川 正人	東京農工大学 大学院 農学府 助教	2年	1,690,000
3	多摩川水域における放射性同位体分布状況調査およびその地形との関連探究	井上 浩義	慶應義塾大学 医学部 化学教室 教授	1年	1,980,000
4	多孔性セラミックスと活性炭を用いた非電化フィルターによる多摩川河川水の滅菌と飲料化の研究	今田 千秋	東京海洋大学 大学院 教授	2年	1,900,000
合 計 (4件)					6,570,000

### 2 新規 一般研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2013年度 助成金額
1	多摩川における日本在来河原植物5種の分布調査	柴田 隆行	多摩川の自然を守る会 代表	2年	687,800
2	市民や子ども達による多摩川流域一斉水質調査についての新たな展開 - 電気伝導率、硝酸態窒素、リン酸態リンの測定 -	渡邊 勇	美しい多摩川フォーラム 環境清流部会長	2年	459,700
3	高尾山におけるムササビの生態研究と普及啓発活動への利用	井上 太志	自然観察活動チーム Wild Lives Watchers 代表	1年	349,060
4	武蔵野台地の風土や課題などを読み解くための散策コースづくりの調査・研究と、それにそった散策会(歴史散歩)の実施	福田 恵一	小平市立小平第三中学校 社会科教諭	1年	174,100
5	多摩川流域におけるカメ相の変遷	佐藤 方博	認定NPO法人 生態工房 事務局長	2年	654,000
6	多摩川流域(世田谷区玉川地域)における「食とアート」を通じた子ども都市農業学習の支援活動	田中 翔	早稲田大学 社会科学部 社会科学科 3年	1年	860,000
7	多摩川及び福生地区の外来生物分布マップの作成	島田 高廣	特定非営利活動法人 自然環境アカデミー 代表理事	1年	1,000,000
8	多摩川・里川・秋川流域の低山丘陵地におけるニホンジカの分布拡大についての研究	御手洗 望	青梅自然誌研究グループ	1年	308,730
合 計 (8件)					4,493,390

### 3 継続 学術研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2012年度 助成金額
1	多摩川流域における都市部から山間部へかけての生物間相互作用の変異と環境教材開発：植物-送粉者系をもちいて	堂園いくみ	東京学芸大学教育学部自然科学系広域自然科学講座環境科学分野 准教授	2年	2,000,000
2	多摩川流域における放射性物質による河川水と土壌などの汚染状況調査と放射線・水環境を学ぶ市民教室の構築	吉田 政高	NPO千葉健康ネットワーク 理事	2年	1,908,000
3	多摩川流域の水生昆虫類の遺伝的構造	倉西 良一	千葉県立中央博物館 主任上席研究員	2年	1,825,080
4	多摩川上流域の山地斜面における深層崩壊に関する地形・地質学的研究	苅谷 愛彦	専修大学文学部環境地理学研究室 准教授	2年	1,031,550
5	首都圏の酸性雨の広域・長期観測データの解析に基づく多摩川流域への環境影響評価	田中 茂	酸性雨問題研究会 代表世話人 (慶應義塾大学理工学部 教授)	2年	1,000,000
6	森林の分断化に伴う生物種の絶滅リスク評価および優先保護区域の抽出：多摩丘陵における複数の種群・スケールの生物多様性を対象とした複合研究	小池 伸介	東京農工大学大学院農学研究院森林生物保全学研究室 講師	2年	1,252,000
7	多摩川生息魚類における漁病細菌の分布調査	間野 伸宏	日本大学生物資源科学部 専任講師	2年	1,874,000
合 計 (7件)					10,890,630

### 4 継続 一般研究

(単位：円)

1	多摩川を溯った江戸・東京の民俗「地口行灯と祭り」	岡崎 学	羽村郷土研究会	2年	67,000
2	多摩川流域の里山にトウキョウサンショウウオの産卵地を復活させるための調査・研究	飛弾 紀子	青梅カエル池プロジェクト	2年	78,680
合 計 (2件)					145,680
総 合 計 (21件)					22,099,700

## 財団からのお知らせ — 助成研究募集のご案内 —

### 多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動助成の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 西本 定保）は、1975年（昭和50年）より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,152件（新規・継続—学術研究722件、一般研究430件、13億6千万円）の調査・試験研究のお手伝いをさせていただきました。

2014年（平成26年）4月からの助成についても、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

#### 1. 応募資格者

下記研究対象テーマに掲げた調査や試験研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

#### 2. 助成研究対象テーマ

- ①産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ②排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究
- ④シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川及びその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの。

#### 3. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出下さい。

「募集要項」「申請書」はホームページ上からダウンロードして下さい。

<http://www.tokyuenvironment.or.jp/invite>

#### 4. 助成の決定

2014（平成26年）年3月に開催予定の当財団選考委員会で選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定致します。

#### 5. 応募締切日 2014（平成26年）年1月15日（水）消印有効

#### 6. 応募にあたっての注意事項

- ①ご応募にあたっては当財団の定める「調査・試験研究助成に関する調査・試験研究の選定基準、助成の方法、調査・試験研究の実施方法、助成金の支払い方法ならびに調査・試験研究者の個人情報保護の方法に関する規程」を必ずお読み下さい。
- ②過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容のちがいがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

（次ページへ続く）

## 7. 助成研究の種別と諸条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 (財団のホームページで過去の研究事例をご参照下さい)	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
1件当たりの助成金総額の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目	直接研究に使用する器具備品で一個、又は一式10万円以上の固定資産。 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。 器械・設備などの賃借料、通信費、その他。	
尚、一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしましたので、奮ってご応募下さい。		

## 「いきもののつながり」 環境紙芝居 15のおはなし

## No.12 水辺の夏のいきものの様子

夏の水辺は、光の輝きに満ちています。子どもたちを水辺へと誘う絶好のチャンスでもあります。帽子と、濡れてもよい服、濡らしてもよい履きなれた靴、網、小さな水槽、ルーベ、ハンドマイク、救急箱、日焼け止め、お弁当、水筒などを準備してさぁ出発！

河原に着いたらまずは、橋の下やシートを張るなどして日影を確保しましょう。そして、水辺に近づく前の注意をしてから、観察をスタートします。

河原には、子どもたちの大好きな、ショウリョウバッタやトノサマバッタ、イトトンボやハグロトンボなどがたくさんいて、必ず大騒ぎになりますが、河原にある石やクズのつるなどに足をとられないように注意させる必要があります。

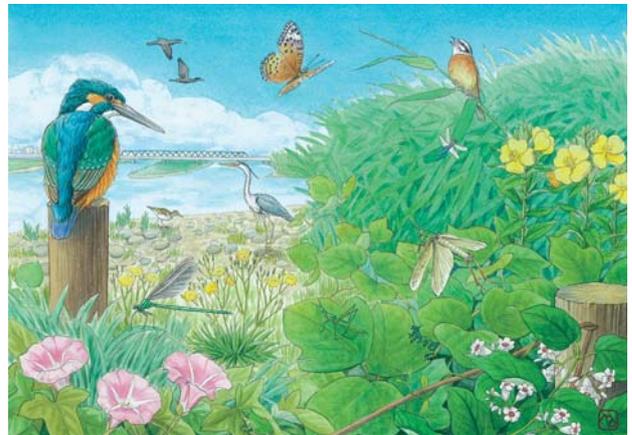
水辺に出てみると、大型のアオサギや白いコサギたち、黒光りしたカワウ、水辺の宝石とも称されるカワセミが、春に生まれて食べるのに丁度良い大きさに育った魚を狙っています。

ここまでの観察が終わったら、さあ、いよいよ魚捕りです。川岸の草の根元の方に網を入れ、足でガサゴソ網に追い込むと、オイカワやモツゴなどの魚のほか、アメリカザリガニやトンボのヤゴなども捕れます。

その際、足を入れた川底の様子（砂利混じり、砂、泥など）を子どもたちに聞いておくと、魚たちが生息に適している環境の違いについても学ぶことができます。

最後に持参した水槽に捕れた魚を入れて全員で共有し、ルーベなどを使って観察してみましょう。

実際の夏草は昆虫たちの食糧だらけです。右の絵のクズの葉はコフキゾウムシによって食べられている最中です。見つけられましたか？



絵：大田黒摩利

「いきもののつながり」制作プロジェクト 代表 下重 喜代

発行 サステナブル・アカデミー・ジャパン  
E-mail : kiyo-sun@nifty.com

- 発行日 平成25年9月1日
- 編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団  
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル 8F)  
TEL (03) 3400-9142  
FAX (03) 3400-9141  
ホームページ <http://www.tokyuenvironment.or.jp/>

